

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、バリューマザーファンド受益証券およびグロースマザーファンド受益証券に投資し、東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。各マザーファンド受益証券への投資配分は50%ずつを基本とし、日本経済のファンダメンタルズ分析、各種テクニカル分析などを基に当社のブレンドファンド運用会議にて決定します。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーマザーファンド	バリューマザーファンド受益証券およびグロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	グロースマザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
	バリューマザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーマザーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	グロースマザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	バリューマザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

三菱UFJ スタイルセレクト・ ブレンドファンド

愛称：潮流

第40期（決算日：2020年9月10日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「三菱UFJスタイルセレクト・ブレンドファンド」は、去る9月10日に第40期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
 フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			東証株価指数 (TOPIX)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税金	み	騰	騰	騰			
	円	円	騰	騰	(TOPIX)	騰	%	%	百万円
36期(2018年9月10日)	10,932	0	△	5.5	1,687.61	△	97.2	—	2,130
37期(2019年3月11日)	9,831	0	△	10.1	1,581.44	△	97.5	—	1,820
38期(2019年9月10日)	9,857	0		0.3	1,557.99	△	98.0	—	1,750
39期(2020年3月10日)	8,988	0	△	8.8	1,406.68	△	97.6	—	1,526
40期(2020年9月10日)	10,258	300		17.5	1,624.86	15.5	96.1	—	1,705

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 東証株価指数 (TOPIX) とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		東証株価指数 (TOPIX)		株式組入比率	株式先物比率
		騰	騰	騰	騰		
(期首) 2020年3月10日	円 8,988		% —	(TOPIX)	% —	% 97.6	% —
3月末	8,881	△	1.2	1,403.04	△	95.6	—
4月末	9,432		4.9	1,464.03	4.1	92.9	—
5月末	10,098		12.3	1,563.67	11.2	93.4	—
6月末	10,102		12.4	1,558.77	10.8	95.0	—
7月末	9,906		10.2	1,496.06	6.4	95.7	—
8月末	10,549		17.4	1,618.18	15.0	96.5	—
(期末) 2020年9月10日	10,558		17.5	1,624.86	15.5	96.1	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第40期：2020年3月11日～2020年9月10日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第40期首	8,988円
第40期末	10,258円
既払分配金	300円
騰落率	17.5%
	(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ17.5%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（15.5%）を2.0%上回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

世界各国による積極的な金融政策や財政政策、新型コロナウイルスの治療薬に関する報道が好感されたことなどから国内株式市況が上昇したこと、バリューマザーファンド（以下、バリューマザー）、グロースマザーファンド（以下、グロースマザー）の上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大などから一時的に国内株式市況が下落したことが、基準価額の一時的な下落要因となりました。

組入ファンド	騰落率	組入比率(対純資産総額)
グロースマザーファンド	25.5%	43.2%
バリューマザーファンド	14.0%	54.3%

第40期：2020年3月11日～2020年9月10日

投資環境について

国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

期首から2020年3月中旬にかけては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大などから国内株式市況は下落しました。

3月下旬から6月上旬にかけては、世界各国による積極的な金融政策や財政政策、新型コロナウイルスの治療薬に関する報

道が好感されたことなどから、国内株式市況は上昇しました。

6月中旬から期末にかけては、新型コロナウイルスの感染再拡大に対する警戒感が高まったことや経済活動停滞を反映した厳しい内容の決算が発表されたことなどから、国内株式市況は上値の重い展開となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド

期を通じて2つのマザーファンドの合計組入比率を高位で維持しました。

スタイル（グロース、バリュー）の投資配分は、期首は世界経済は徐々に回復に向かうと考え、投資指標面での割安感が強いバリュー銘柄優位の展開を想定し、バリューをややオーバーウェイトとしていました。2020年3月下旬に世界各国による積極的な金融政策や財政政策などか

ら世界経済は徐々に回復へ向かうと考え、バリュー銘柄の巻き戻しに備えバリューのオーバーウェイト比率を拡大する決定をしました。期末時点でもバリューのオーバーウェイトを継続しております。

“グロース”と“バリュー”への投資配分は、50%ずつを基本とし、ブレンドファンド運用会議により決定します。期末現在の組入比率は、バリューマザー54.3%、グロースマザー43.2%としております。

▶ グロースマザーファンド

個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。

組入銘柄数は概ね57～63銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相対比較などを勘案し、適宜銘柄の入れ替えを行いました。当期では小糸製作所、住友化学など8銘柄を新規に組み入れました。また、テルモ、大塚ホールディングスなど6銘柄を全株売却しました。

▶ バリューマザーファンド

RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資する

ことにより、値上がり益の獲得をめざし、銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍率（PBR）を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性など定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。

組入銘柄数は60～63銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期では、伊藤忠商事や日本電気など10銘柄を新規に組み入れました。また、日立製作所や三井不動産など9銘柄を全株売却しました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

▶ 三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（15.5%）を2.0%上回りました。

資産配分効果はマイナスとなりましたが、バリュエーター、グロースマザーがそれぞれアウトパフォーマンスした結果、全体としてはベンチマークを上回りました。

▶ グロースマザーファンド プラス要因

業種配分効果

陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイト、電気機器をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択効果

エムスリー、ソフトバンクグループをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

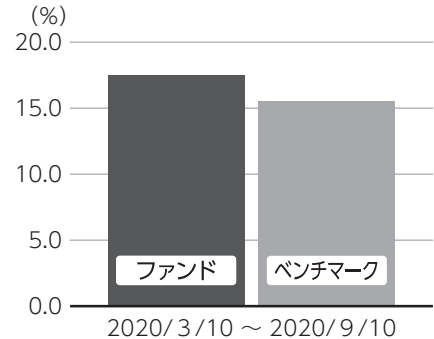
業種配分効果

金属製品をベンチマークに対してオーバーウェイト、その他金融業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択効果

資生堂、太陽誘電をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

基準価額（ベビーファンド）と ベンチマークの対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

▶ バリューマザーファンド

プラス要因

業種配分効果

非鉄金属、証券、商品先物取引業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択効果

ウエストホールディングス、イビデンをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分効果

卸売業をベンチマークに対して概ねアンダーウェイトとしていたことや鉱業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択効果

リコー、グローリーをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第40期 2020年3月11日～2020年9月10日
当期分配金（対基準価額比率）	300 (2.841%)
当期の収益	112
当期の収益以外	187
翌期繰越分配対象額	1,731

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド

投資スタイルは、新型コロナウイルスの経済への影響はリスク要因ではありますが、世界経済は徐々に回復へ向かいつつあることから、投資指標面での割安感が

強いバリュー銘柄が優位な展開を想定し、バリューのオーバーウェイトを継続します。しかし、短期的な新型コロナウイルス感染者の拡大ペースなどにより物色動向も相応に変化する局面が想定されることから、機動的な運用を行う方針です。

▶ グロースマザーファンド

基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

新型コロナウイルス感染の再拡大から景気の本格回復に時間がかかる懸念はありますが、グローバルで見て様々な国が対策を打ち出していることやワクチンの開発も進んでいることなどから、新型コロナウイルス問題はいずれ沈静化していくと考えます。同問題が収束に向かうに伴い個人や企業の活動状況が正常化され、中期的に見れば株式市況は堅調に推移すると想定します。この様な背景から企業業績への改善期待が株式市況にプラス寄与すると予想され、今後も綿密に企業業績を確認しながら銘柄選択を行っていく方針です。

▶ バリューマザーファンド

今後も基本方針に従い、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正PBRを基にセクター内比較等を行い、より割安度が強い銘柄を絞り込んだ上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しているかや同一業種内における企業の優位性など、取材等を通じた定性面の評価を加え銘柄を選定します。

依然予断を許さないものの、国内や米国などでの新型コロナウイルスの感染再拡大に落ち着きが見られ、ワクチンの開発進展に対する期待も高まりつつあります。しかしながら、ワクチンが広く普及するには相応の時間を要すると見ており、経済の回復ペースは緩やかなものになると考えています。一方、コーポレートガバナンス強化を促す制度や投資家との建設的な対話の広がり、日本企業の変化に確実に繋がり始めており、より資本効率を意識した経営が進む中で、事業ポートフォリオの見直しや株主還元の拡充といった動きが加速しています。

こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選択していく方針です。

2020年3月11日～2020年9月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	92	0.939	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(43)	(0.442)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(43)	(0.442)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	3	0.034	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(3)	(0.034)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	95	0.974	

期中の平均基準価額は、9,758円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

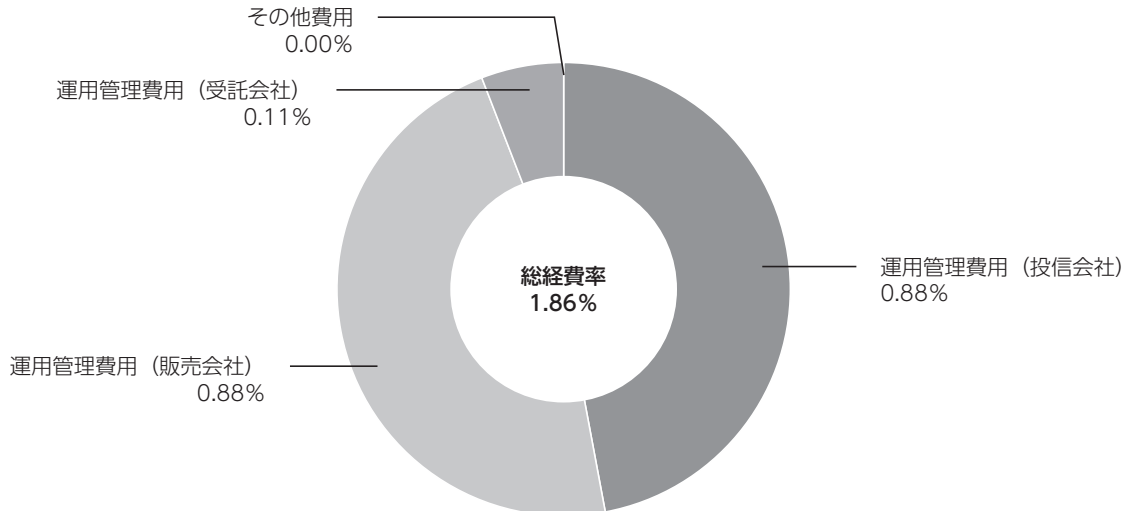
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.86%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年3月11日～2020年9月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
グロースマザーファンド	7,861	9,029	186,040	197,183
バリューマザーファンド	61,128	137,531	39,118	92,443

○株式売買比率

(2020年3月11日～2020年9月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グロースマザーファンド	バリューマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	655,412千円	757,059千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,165,687千円	1,246,216千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.30	0.60

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年3月11日～2020年9月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド>

該当事項はございません。

<グロースマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	190	32	16.8%	464	55	11.9%

平均保有割合 32.5%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

<バリューマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	404	38	9.4%	352	10	2.8%

平均保有割合 69.1%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人の発行する有価証券等

<バリューマザーファンド>

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 12	百万円 12	百万円 62

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	564千円
うち利害関係人への支払額 (B)	47千円
(B) / (A)	8.5%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJリース、モルガン・スタンレーMUF G証券です。

○組入資産の明細

(2020年9月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グロースマザーファンド	772,142	593,963	737,168
バリューマザーファンド	343,575	365,585	926,247

○投資信託財産の構成

(2020年9月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グロースマザーファンド	737,168	41.6
バリューマザーファンド	926,247	52.3
コール・ローン等、その他	107,078	6.1
投資信託財産総額	1,770,493	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,770,493,187
コール・ローン等	49,797,022
グロースマザーファンド(評価額)	737,168,147
バリューマザーファンド(評価額)	926,247,579
未収入金	57,280,439
(B) 負債	65,299,292
未払収益分配金	49,871,442
未払信託報酬	15,404,263
未払利息	91
その他未払費用	23,496
(C) 純資産総額(A-B)	1,705,193,895
元本	1,662,381,400
次期繰越損益金	42,812,495
(D) 受益権総口数	1,662,381,400口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,258円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,698,193,732円
 期中追加設定元本額 316,675円
 期中一部解約元本額 36,129,007円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.0258円です。

②分配金の計算過程

項 目	2020年3月11日～ 2020年9月10日
費用控除後の配当等収益額	18,689,458円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	-円
収益調整金額	2,955,970円
分配準備積立金額	316,060,848円
当ファンドの分配対象収益額	337,706,276円
1万口当たり収益分配対象額	2,031円
1万口当たり分配金額	300円
収益分配金金額	49,871,442円

○損益の状況 (2020年3月11日～2020年9月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 11,106
受取利息	210
支払利息	△ 11,316
(B) 有価証券売買損益	276,274,873
売買益	281,035,220
売買損	△ 4,760,347
(C) 信託報酬等	△ 15,427,759
(D) 当期損益金(A+B+C)	260,836,008
(E) 前期繰越損益金	△ 118,315,057
(F) 追加信託差損益金	△ 49,837,014
(配当等相当額)	(2,955,393)
(売買損益相当額)	(△ 52,792,407)
(G) 計(D+E+F)	92,683,937
(H) 収益分配金	△ 49,871,442
次期繰越損益金(G+H)	42,812,495
追加信託差損益金	△ 49,837,014
(配当等相当額)	(2,955,970)
(売買損益相当額)	(△ 52,792,984)
分配準備積立金	284,878,864
繰越損益金	△ 192,229,355

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1 万円当たり分配金（税込み）	300円
-----------------	------

◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、2020年9月10日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。
- ・分配時において、外国税控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

グロースマザーファンド

《第40期》決算日2020年9月10日

[計算期間：2020年3月11日～2020年9月10日]

「グロースマザーファンド」は、9月10日に第40期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第40期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰	中 落 率	期 騰	中 落 率			
	円	%		%	%	%	百万円
36期(2018年9月10日)	10,918	△ 4.4	169.85	△ 2.9	95.9	—	2,999
37期(2019年3月11日)	9,883	△ 9.5	159.42	△ 6.1	96.6	—	2,528
38期(2019年9月10日)	10,261	3.8	161.56	1.3	97.7	—	2,371
39期(2020年3月10日)	9,886	△ 3.7	153.05	△ 5.3	96.9	—	2,133
40期(2020年9月10日)	12,411	25.5	186.21	21.7	97.4	—	2,331

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2020年3月10日	円	%		%	%	%
	9,886	—	153.05	—	96.9	—
3月末	9,901	0.2	154.87	1.2	97.9	—
4月末	10,692	8.2	163.69	7.0	97.9	—
5月末	11,676	18.1	177.10	15.7	98.0	—
6月末	12,001	21.4	179.35	17.2	96.0	—
7月末	11,955	20.9	174.80	14.2	96.8	—
8月末	12,406	25.5	185.29	21.1	97.9	—
(期 末) 2020年9月10日						
	12,411	25.5	186.21	21.7	97.4	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

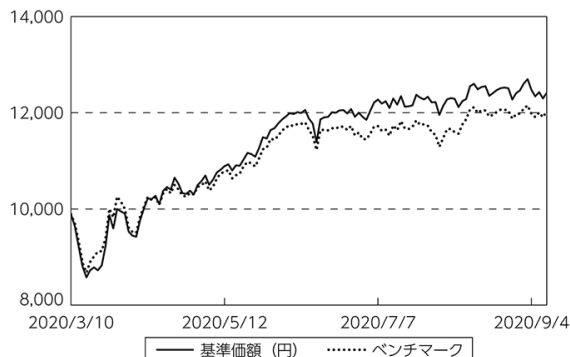
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ25.5%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(21.7%)を3.8%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

世界各国による積極的な金融政策や財政政策、及び新型コロナウイルスの治療薬やワクチンに関する報道などが好感され、中期的な企業業績に対する不透明感が後退したことなどを背景に国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大懸念などを背景に国内株式市況が一時的に下落したことが、一時的な基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…エムスリー、第一三共、キーエンス、任天堂、日本電産

下位5銘柄…SUMCO、資生堂、カシオ計算機、THK、サイバーエージェント

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期首は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大懸念などから下落してスタートしたものの、その後は世界各国による積極的な金融政策や財政政策、及び新型コロナウイルスの治療薬やワクチンに関する報道などが好感され、中期的な企業業績に対する不透明感が後退したことなどから国内株式市況は上昇基調で推移しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は概ね57～63銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相对比较などを勘案し、適宜銘柄の入れ替えを行いました。当期では小糸製作所、住友化学など8銘柄を新規に組み入れました。また、テルモ、大塚ホールディングスなど6銘柄を全株売却しました。

- 当該投資信託のベンチマークとの差異について
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(21.7%)を3.8%上回りました。

(プラス要因)

- ・業種配分効果：陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイト、電気機器をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。
- ・銘柄選択効果：エムスリー、ソフトバンクグループをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分効果：金属製品をベンチマークに対してオーバーウェイト、その他金融業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択効果：資生堂、太陽誘電をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

◎今後の運用方針

- ・基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。
- ・新型コロナウイルス感染の再拡大から景気の本格回復に時間がかかる懸念はありますが、グローバルで見て様々な国が対策を打ち出していることやワクチンの開発も進んでいることから、新型コロナウイルス問題はいずれ沈静化していくと考えます。同問題が収束に向かうに伴い個人や企業の活動状況が正常化され、中期的に見れば株式市況は堅調に推移すると想定します。この様な背景から企業業績への改善期待が株式市況にプラスに寄与すると予想され、今後も綿密に企業業績を確認しながら銘柄選択を行っていく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2020年3月11日～2020年9月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 3 (3)	% 0.023 (0.023)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	3	0.023	
期中の平均基準価額は、11,363円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2020年3月11日～2020年9月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		128	190,748	104	464,663
		(41)	()		

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2020年3月11日～2020年9月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	655,412千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,165,687千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.30

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年3月11日～2020年9月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
		百万円	%		百万円	%
株式	190	32	16.8	464	55	11.9

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	503千円
うち利害関係人への支払額 (B)	67千円
(B) / (A)	13.3%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2020年9月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (1.8%)			
コムシスホールディングス	12.3	11.2	32,849
大成建設	3.9	1.9	6,868
食料品 (2.7%)			
ヤクルト本社	3.1	—	—
ニチレイ	15.1	13.8	37,908
日清食品ホールディングス	1.9	2.3	22,908
化学 (4.6%)			
住友化学	—	66	24,816
三菱瓦斯化学	—	10.4	20,477
J S R	5	3.5	8,666
資生堂	11.5	8.2	50,569
医薬品 (7.2%)			
塩野義製薬	3.8	—	—
日本新薬	3.4	3.1	26,660
中外製薬	3	5	23,545
第一三共	14.8	10.2	96,532
大塚ホールディングス	5.5	—	—
ペプチドリーム	4.3	3.8	16,150
非鉄金属 (1.4%)			
住友金属鉱山	10	9.1	32,241
金属製品 (2.7%)			
SUMCO	47.2	43.1	60,555
機械 (7.0%)			
SMC	1.2	1.1	62,920
ダイキン工業	2.3	2.1	40,918
ダイフク	4.2	3.9	36,270
THK	—	7.3	19,702
電気機器 (31.3%)			
イビデン	7.6	7	24,815
富士電機	6.2	5.7	20,092
安川電機	9.1	8.3	32,868
日本電産	5.1	9.4	87,692
アンリツ	11.4	10.5	23,866
ソニー	8.4	7.7	63,263
TDK	—	1.9	22,344
アドバンテスト	5.4	4.9	24,083
キーエンス	3.3	2.7	120,960
レーザータック	1.8	1.6	12,464
山一電機	4.6	4.5	6,160

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
カシオ計算機	—	8.8	15,092
ファナック	0.1	0.1	2,115
太陽誘電	14	12.8	39,232
村田製作所	12.8	11.7	77,173
小糸製作所	—	4.5	24,975
S C R E E Nホールディングス	7.3	6.7	35,175
東京エレクトロン	3.4	3.1	79,329
輸送用機器 (1.7%)			
トヨタ自動車	3.6	3.3	22,951
日野自動車	0.6	—	—
本田技研工業	6.4	5.8	15,477
精密機器 (3.5%)			
テルモ	15.9	—	—
オリンパス	6.7	9.5	19,788
HOYA	5.5	2.3	24,253
朝日インテック	22.6	11.5	35,592
その他製品 (4.2%)			
ヤマハ	4.2	3.9	18,993
任天堂	1.5	1.3	76,739
陸運業 (0.4%)			
京成電鉄	5	—	—
ヤマトホールディングス	3.7	3.4	8,962
情報・通信業 (10.0%)			
T I S	10.8	29.7	61,419
Zホールディングス	63.9	58.4	37,025
日本ユニシス	3.5	4.5	13,725
KDD I	9.1	8.3	24,476
ソフトバンクグループ	18.1	15.6	90,480
小売業 (9.3%)			
スシローグローバルホールディングス	3.4	12.4	32,438
パン・パシフィック・インターナショナルホ	28.7	26.3	60,910
丸井グループ	11.1	10.2	19,686
ニトリホールディングス	1	0.9	18,868
ファーストリテイリング	1.3	1.2	79,704
不動産業 (0.3%)			
三井不動産	4.2	3.9	7,710
サービス業 (11.9%)			
エムスリー	23	21	130,620
アウトソーシング	—	17	16,048
オリエンタルランド	3	1.9	27,987

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
サイバーエージェント	—	3.5	19,355
トレンドーズ	9.6	8.8	5,772

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
リクルートホールディングス	13.9	16.7	69,238
合 計	株 数 ・ 金 額	533	599
	銘柄数<比率>	59	61 <97.4%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
 (注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2020年9月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 2,270,484	% 96.3
コール・ローン等、その他	86,371	3.7
投資信託財産総額	2,356,855	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,356,855,548
コール・ローン等	85,471,933
株式(評価額)	2,270,484,600
未収配当金	899,015
(B) 負債	25,767,274
未払解約金	25,767,117
未払利息	157
(C) 純資産総額(A-B)	2,331,088,274
元本	1,878,169,955
次期繰越損益金	452,918,319
(D) 受益権総口数	1,878,169,955口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,411円

<注記事項>

- ①期首元本額 2,157,781,671円
 期中追加設定元本額 54,754,525円
 期中一部解約元本額 334,366,241円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.2411円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド	1,284,206,417円
三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド	593,963,538円
合計	1,878,169,955円

○損益の状況 (2020年3月11日～2020年9月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	15,311,983
受取配当金	15,322,950
受取利息	332
その他収益金	134
支払利息	△ 11,433
(B) 有価証券売買損益	477,355,704
売買益	507,289,470
売買損	△ 29,933,766
(C) 当期損益金(A+B)	492,667,687
(D) 前期繰越損益金	△ 24,510,146
(E) 追加信託差損益金	9,228,201
(F) 解約差損益金	△ 24,467,423
(G) 計(C+D+E+F)	452,918,319
次期繰越損益金(G)	452,918,319

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

バリューマザーファンド

《第40期》決算日2020年9月10日

〔計算期間：2020年3月11日～2020年9月10日〕

「バリューマザーファンド」は、9月10日に第40期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第40期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、株価が割安と判断される銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、配当利回り、PER（株価収益率）、PCFR（株価キャッシュフロー倍率）、PSR（株価売上高倍率）などの様々な指標を用いた定量評価を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックス		株式組入比率	株式先物比率	純資産総額
	円	騰落率		騰落率			
36期(2018年9月10日)	28,285	△ 5.0%	759.69	△ 3.6%	99.2%	—	1,536 百万円
37期(2019年3月11日)	25,743	△ 9.0%	712.00	△ 6.3%	99.0%	—	1,313
38期(2019年9月10日)	25,282	△ 1.8%	686.69	△ 3.6%	98.6%	—	1,359
39期(2020年3月10日)	22,215	△12.1%	590.98	△13.9%	98.2%	—	1,152
40期(2020年9月10日)	25,336	14.0%	645.63	9.2%	99.4%	—	1,340

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、低修正PBR銘柄により構成されています。

RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックス		株組入比率	株先物比率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2020年3月10日	円	%		%	%	%
	22,215	—	590.98	—	98.2	—
3月末	21,677	△ 2.4	576.75	△ 2.4	94.0	—
4月末	22,853	2.9	596.05	0.9	96.5	—
5月末	24,281	9.3	628.68	6.4	97.3	—
6月末	23,837	7.3	617.85	4.5	97.6	—
7月末	23,119	4.1	585.41	△ 0.9	98.5	—
8月末	25,282	13.8	644.39	9.0	98.8	—
(期末) 2020年9月10日						
	25,336	14.0	645.63	9.2	99.4	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

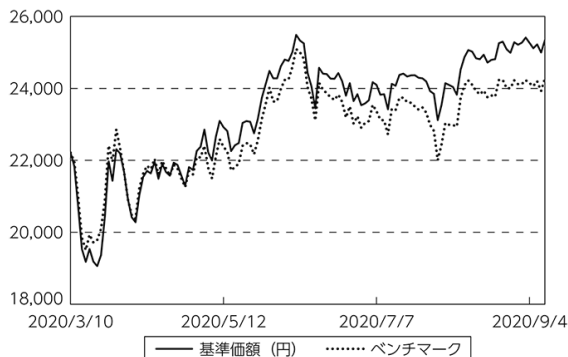
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ14.0%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(9.2%)を4.8%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

各国の積極的な金融政策や財政政策を受けて、欧米および国内での経済活動が正常化へ向かうことなどが期待されたことで、国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

新型コロナウイルスが欧米で急速に拡大し、経済活動の制限などを通じた世界的な景気悪化懸念を招いたことなどで国内株式市況が一時的に下落したことが、基準価額の一時的な下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…ウエストホールディングス、ソフトバンクグループ、SBIホールディングス、イビデン、日立建機

下位5銘柄…リコー、富士フイルムホールディングス、IHI、三井不動産、J.フロント リテイリング

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期首から2020年3月中旬にかけては、新型コロナウイルスが欧米で急速に拡大し、経済活動の制限などを通じた世界的な景気悪化懸念を招いたことなどから、国内株式市況は下落しました。
- ・3月下旬から期末にかけては、各国が積極的な金融政策や財政政策を打ち出したことで、欧米および国内での経済活動が正常化へ向かうことなどが期待され、国内株式市況は上昇しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざし、銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍率(PBR)を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性などの定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。
- ・組入銘柄数は60～63銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期では、伊藤忠商事や日本電気など10銘柄を新規に組み入れました。また、日立製作所や三井不動産など9銘柄を全株売却しました。

- 当該投資信託のベンチマークとの差異について
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(9.2%)を4.8%上回りました。

(プラス要因)

- ・業種配分効果：非鉄金属、証券、商品先物取引業をベンチマークに対してオーバーウェイトと

していたことがプラスに寄与しました。

- ・銘柄選択効果：ウエストホールディングス、イビデンをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分効果：卸売業をベンチマークに対して概ねアンダーウェイトとしていたことや鉱業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択効果：リコー、グローリーをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

○今後の運用方針

- ・今後も基本方針に従い、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正PBRを基にセクター内比較等を行い、より割安度が強い銘柄を絞り込んだ上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しているかや同一業種内における企業の優位性など、取材等を通じた定性面の評価を加え銘柄を選定します。
- ・依然予断を許さないものの、国内や米国などでの新型コロナウイルスの感染再拡大に落ち着きが見られ、ワクチンの開発進展に対する期待も高まりつつあります。しかしながら、ワクチンが広く普及するには相応の時間を要すると見ており、経済の回復ペースは緩やかなものになると考えています。一方、コーポレートガバナンス強化を促す制度や投資家との建設的な対話の広がり、日本企業の変化に確実に繋がりが始めており、より資本効率を意識した経営が進む中で、事業ポートフォリオの見直しや株主還元の拡充といった動きが加速しています。
- ・こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選択していく方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年3月11日～2020年9月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 11 (11)	% 0.046 (0.046)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	11	0.046	
期中の平均基準価額は、23,337円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2020年3月11日～2020年9月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 244	千円 404,987	千株 298	千円 352,071

(注) 金額は受渡代金。

○ 株式売買比率

(2020年3月11日～2020年9月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	757,059千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,246,216千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.60

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年3月11日～2020年9月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 404	百万円 38	% 9.4	百万円 352	百万円 10	% 2.8

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 12	百万円 12	百万円 62

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	580千円
うち利害関係人への支払額 (B)	37千円
(B) / (A)	6.5%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJリース、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2020年9月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
鉱業 (0.9%)			
国際石油開発帝石	14.5	19.1	12,164
建設業 (6.0%)			
ウエストホールディングス	10.8	9.7	26,762
大成建設	—	3.7	13,375
前田建設工業	18.7	9.6	7,219
前田道路	4	—	—
積水ハウス	9.1	9.4	19,796
住友電設	5.5	5.7	13,246
食料品 (0.9%)			
雪印メグミルク	6.1	5.1	11,628
伊藤ハム米久ホールディングス	20.7	—	—
繊維製品 (—%)			
東レ	40.7	—	—
化学 (7.1%)			
旭化成	—	15.6	14,678
日本曹達	5	4.6	14,237
関東電化工業	14.1	15.1	11,642
日本化学工業	6.6	5.8	13,728
三菱瓦斯化学	13.1	—	—
積水化成工業	17.5	18.3	10,504
富士フイルムホールディングス	—	4.2	20,995
有沢製作所	8.9	9.3	8,872
医薬品 (2.4%)			
武田薬品工業	6.7	8.1	31,330
ガラス・土石製品 (1.5%)			
A G C	—	6.1	19,703
鉄鋼 (2.5%)			
日本製鉄	—	19.7	22,930
日立金属	23.7	6.1	10,180
非鉄金属 (5.7%)			
住友金属鉱山	7.3	8.3	29,406
古河電気工業	7	7.3	18,731
昭和電線ホールディングス	18.2	25	27,800
金属製品 (—%)			
SUMCO	11.8	—	—
機械 (5.1%)			
アマダ	12.2	14.2	14,484
牧野フライス製作所	1.3	1.8	7,263
日立建機	7.9	3.5	12,985

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
クボタ	—	10.8	20,833
グローリー	5.2	5.4	12,349
I H I	8.4	—	—
電気機器 (12.6%)			
イビデン	8.4	7.5	26,587
日立製作所	7.4	—	—
日新電機	12.4	13	15,080
日本電気	—	6.3	35,406
富士通	2	2.5	33,675
セイコーエプソン	15.5	7.8	9,796
パナソニック	19.5	22.4	22,034
T O A	12.4	13	9,867
リコー	31.6	20.6	15,697
輸送用機器 (7.9%)			
三菱ロジスネクスト	11.4	7	6,993
日産車体	13.3	13.9	13,302
アイシン精機	9.7	13	47,060
本田技研工業	14.2	14	37,359
精密機器 (1.5%)			
タムロン	—	11.6	19,546
その他製品 (1.5%)			
凸版印刷	13.7	13.5	20,466
電気・ガス業 (1.0%)			
中部電力	14.1	10	13,225
陸運業 (5.4%)			
京成電鉄	3.8	4.3	13,330
日本通運	6	6.5	40,430
日立物流	4.7	4.9	17,738
海運業 (1.4%)			
商船三井	5.6	8.4	19,320
倉庫・運輸関連業 (1.5%)			
住友倉庫	19.8	15.2	20,398
情報・通信業 (9.1%)			
プロトコボレーション	24	20.3	24,867
日本電信電話	6.3	10.3	24,287
ソフトバンクグループ	10	12.4	71,920
卸売業 (7.6%)			
小野建	13.8	12.3	13,972
メディアパルホールディングス	12.8	12.6	26,220
伊藤忠商事	—	19.3	53,383

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
丸紅	35.6	—	—
三菱商事	11	2.8	7,191
小売業 (1.1%)			
J. フロント リテイリング	—	19.8	14,473
銀行業 (4.8%)			
三菱UFJフィナンシャル・グループ	97	120.8	52,837
南都銀行	5.9	6.1	11,638
証券、商品先物取引業 (5.1%)			
SBIホールディングス	11.6	14.3	38,395
野村ホールディングス	51.6	54.1	29,203

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
保険業 (5.9%)			
第一生命ホールディングス	14.6	28.4	44,360
東京海上ホールディングス	7.3	7	34,524
その他金融業 (0.7%)			
三菱UFJリース	38	18.7	9,854
不動産業 (—%)			
三井不動産	10.4	—	—
サービス業 (0.8%)			
電通グループ	3.6	3.7	11,248
合 計	株数・金額	884	829
	銘柄数<比率>	61	62 <99.4%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2020年9月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	1,332,543	96.3
コール・ローン等、その他	50,483	3.7
投資信託財産総額	1,383,026	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,383,026,815
コール・ローン等	49,405,605
株式(評価額)	1,332,543,010
未収配当金	1,078,200
(B) 負債	42,090,184
未払解約金	42,090,094
未払利息	90
(C) 純資産総額(A-B)	1,340,936,631
元本	529,256,152
次期繰越損益金	811,680,479
(D) 受益権総口数	529,256,152口
1万口当たり基準価額(C/D)	25,336円

<注記事項>

- ①期首元本額 518,950,800円
 期中追加設定元本額 68,221,380円
 期中一部解約元本額 57,916,028円
 また、1口当たり純資産額は、期末25,336円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJスタイルセレクト・ブレンッドファンド	365,585,562円
三菱UFJスタイルセレクト・バリューマザーファンド	163,670,590円
合計	529,256,152円

○損益の状況 (2020年3月11日～2020年9月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	21,819,991
受取配当金	21,824,100
受取利息	178
その他収益金	177
支払利息	△ 4,464
(B) 有価証券売買損益	147,657,600
売買益	203,933,513
売買損	△ 56,275,913
(C) 当期損益金(A+B)	169,477,591
(D) 前期繰越損益金	633,881,892
(E) 追加信託差損益金	86,094,033
(F) 解約差損益金	△ 77,773,037
(G) 計(C+D+E+F)	811,680,479
次期繰越損益金(G)	811,680,479

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。